

## ○第2期稲沢市子ども・子育て支援事業計画（案）パブリックコメントの実施結果について

- 1 募集期間 令和元年12月17日（火）から令和2年1月16日（木）まで
- 2 提出者数 6人
- 3 意見件数 37件
- 4 提出された御意見の要旨と市の考え方  
（御意見は、文意等を損なわないように要約等させていただきます）

### ・障害児について

整理番号	御意見の要旨	市の考え方
1	<p>障害児保育を受けている多くの保護者より話を聞き、市職員から「稲沢市は、幼稚園は私立のみで障害児の受け入れは難しい。障害児は加配保育を実施している公立保育園での保育が望ましい。」と案内されていますが、そのような場合でも就労証明が必要だと言われます。</p> <p>兄弟児が生まれたばかりで、職探しも困難な状況や、心身状態が不安定（夜眠れない等）で親の負担の大きい事もあります。どのような状況でも就労証明が必要になるのでしょうか。</p>	<p>保護者の方の意向に沿った保育等を実施する場所が利用できることが大切だと考えますが、障害をお持ちのお子様については、加配保育を実施している保育園での保育を提案する場合があります。なお、障害児保育を含めて保育園の利用には、保育の必要性の認定が必要であるため、家庭での保育が困難であることが証明できるもの（就労等証明書、診断書等）の提出をお願いしています。</p>
2	<p>地域の中学校に通う発達障害のお子さんが、中学校卒業後の進路を考えるにあたり、いつでも相談できる窓口があれば教えてほしい。学校によっては、指導の違いがあるようなので、稲沢市として進路についての相談窓口を明らかにしていただき、詳しく教えていただける勉強会などを開催して欲しい。</p>	<p>障害の程度や状況は、個々に差があり、個に応じた指導や対応が必要であるため、進路相談の窓口は学校であることが望ましいと考えます。なお、発達に関する悩みに関しては、子育て支援総合相談センターへご相談ください。</p>
3	<p>公立保育園での「障がい児保育」の指定園が随分と増え驚き、嬉しく思いました。幼少期から多様性の中で育ち合った力は、豊かな共生社会の実現には欠かせず、子どもと親、そして地域が育つといわれています。特に、子どもの育ちや家庭環境に課題を抱える子育て家庭にとっては、公立・私立を問わず自分たちの住んでいる地域の中で子育てが出来る安心感は計りえない喜びだと思い感謝されています。公立は全園を目標にお願いします。</p>	<p>加配保育のニーズは、年々増加傾向で、今年度は駅前保育園と領内保育園を障害児保育指定園としました。今後もニーズに合わせ検討をしていきます。</p>

・保育園について

4	<p>女性の社会進出が進み働く理由は様々に、そして保育料の無償化制度も始まりました。今後、入園を希望する共働き世帯の増加は加速していくと思われます。子どもの最善の利益をベースに施策を遂行していただきたいと願います。現役保育士時代に、長時間預けられている子どもの表情と心を観てきました。子どもが後回しにならないよう、子ども目線の子育て支援策を切望します。</p>	<p>市では、「思いやり支えあい、地域で育む子育て支援」を基本理念として、保護者および関係機関の連携をもとに子育て施策を進めてまいります。</p>
5	<p>保育園入園について</p> <p>① 週2・3日の短時間労働でも保育園に入園したいという声。現行、該当外。</p> <p>②未歩行でも入園できるように（乳児～）</p> <p>③家庭の事情で短時間だけでも働きたい親や、障がいがある子どもがいる家庭は、親の就労と子どもの育ちの保障がされない不安だらけで過ごしています。稲沢市が子育て世代を応援するためにも入園規定の独自の柔軟さと加配は保育士以外では、どうなのでしょう。加配希望者の声は聴かれていますか。介護職、看護師、障がいや発達に課題を持つ子どもがいる親や、県の子育て支援員養成講座修了生で障がい児施設の研修を組み合わせるなど子どもを応援したい人材を育てる方向性も視野に入れたらどうでしょうか。</p>	<p>①保育の必要性の認定が必要となりますが、稲沢市では、月60時間以上就労している場合に保育園の利用ができます。例えば、5時間×12日、6時間×10日の就労でも保育園の利用は可能です。労働時間が月60時間に満たない場合は、一時保育利用ができます。</p> <p>②乳児につきましては、発達の個人差を考慮し、未歩行のお子さんの入園は可能です。幼児につきましては、自立歩行が前提となります。</p> <p>③稲沢市内保育園では、クラス担任と加配保育士が連携を取りながら、定型発達の子・加配の子とクラスのお子さんと一緒にみています。子どもの発達に合わせた関わりや子どもの気持ちを尊重した関わりは、資格を持つ保育士だからこそ可能になるのではないかと考えます。また、保育補助として、子育て支援員養成講座修了生や子育て経験者、学生の方等、保育を応援したい人材の活用も視野に入れていきます。</p>
6	<p>長岡保育園利用者が減少傾向にあり、保育園がなくなると不安に思いながら通わせる保護者もいれば、他校区の保育園に通わせる保護者も出てきました。保育標準時間や延長保育の利用ニーズの高まりが主な理由であると思いますが、少子高齢化の波は地方ほどより顕著に現れているのも大きな理由でしょう。</p> <p>平和地区が六輪・法立・三宅の三園を一つのこども園に移行することが決定しました。長岡・山崎・丸甲保育園利用者は祖父江地区もそうなるのではないかと不安を感じているのではないのでしょうか。</p> <p>保護者の中で不安が広まっている状況は望ましいものではなく、卒園児にとって</p>	<p>3-5歳児の幼児期においては、子どもの協同性の芽生えを育むことが必要と考えています。多様に相手を選ぶことができたり、思いを主張しあうことができたり、集団内で自然な関わりができる状況を作るには、ある程度の人数が所属する集団である必要があると考えます。</p> <p>公共施設の統廃合は、稲沢市の未来に必要な不可欠であるため、保育施設を利用している子どもにとってより良い保育環境となるように、地域の方や有識者の御意見をいただきながら、公立保育園のあり方を検討していきます。</p>

<p>母園がなくなるというのは寂しい話です。</p> <p>祖父江地区は地理的に園間に距離があり、統廃合は不便や危険が生じると感じます。保育園は社会福祉機関であり、保護者が何らかの理由により保育に欠ける場合に子を預ける場所です。特に地方は、都市部よりも介護を担っている可能性が高くなります。貧困も見逃せない理由です。近隣に保育園がなければ、生活に不都合が生じます。祖父江地区の保育園は全て小学校と隣接する形になっており、災害時避難所となる小学校と保育園が隣接しているのは防災上最も望ましい形であると考えます。自宅から遠い保育園に通わせると、大災害が起こった時に家族が合流しにくくなり、小さな子どもには心理的な負担が大きいのではないのでしょうか。また、違うメリットとして、保育園ではありますが「小学校付属幼稚園」のような性質を帯び、首都圏で多くの保護者を魅了している幼児期からの一貫した教育環境が稲沢市の端っこで整えられているように感じます。小学校との交流は園児にとってとてもいい影響があるように感じますし、実際多数の高学歴者がこの土地から輩出されているのは、そのような教育環境の成果ではないのでしょうか。子育て・教育は稲沢で！というスローガンが掲げられています。優秀な人材を輩出することもまた稲沢市の未来を明るくします。祖父江地区は郷土史的にも各小学校区で歩んできた歴史が異なっています。効率のため統廃合というのは、歴史が簡単には許しません。保育園で歌われている郷土のわらべ歌すら違うのです。郷土史を正しく伝えてゆくのはその土地に住む大人の責任であると思います。</p> <p>少子化が進んでおりますが、今後働く女性はますます増えていきます。少子高齢化による働き手不足で女性の労働力に期待が集まっており、所得が上がれば税収も上がります。保育所不足が騒がれていますので、恵まれた環境を手放すのは批判が集まります。効率だけでなく、子育て環境が市の未来に与える影響も鑑み</p>	
--	--

	ながら、今後の方向性を決定していただきたい。子の未来、そしてその次に続いていく命の未来が明るいことを祈ります。	
--	---	--

・子どもの成長について

7	これから未来を創っていく子ども達と、その子ども達が育つ家庭の幸せのために、子どもが親に遠慮なく甘えることの出来る時間の保障と、親が子どもの本当の姿を見る機会を奪うことにならないよう細心の注意を要します。親としてどんな学びが必要なのか、親になる前の世代からと親になった人が「子ども」「子育て」を学ぶ機会や、子どもの育ちに関心の薄い親へどうアプローチしていくのか団体としても大きな課題です。多くの専門家が提言しているように就学前までに愛着形成を育み、自己肯定感、自尊心を養えるか否かで、将来の虐待、いじめ、不登校、引きこもり、自殺等子どもの育ちに影響を及ぼすといっても過言ではありません。	<p>保育園では、乳幼児期の愛着形成を育むために、個を大切にしたい、応答的保育（子どもの思いに共感し、丁寧に応答する保育）を心がけています。また、保育の場面での子どもの姿や育ちを保護者に丁寧に伝えることで、子どもの成長を共に喜び合い、子育てを楽しめるようにと考えます。</p> <p>仕事を持っての子育ては大変ですが、子どもが保育園で十分に気持ちを受け止めてもらい自己表現をする姿に気づくことで、少しずつでも子育てに関心を向けていただけないかと考えます。</p> <p>また、地域子育て支援拠点事業では、子ども同士、親同士などの交流を促進しながら、気軽に子育てを相談できる場が増えるよう努めていきます。このほか、子育ての学びの場として、研修や子育て講座などを開催するよう努めます。</p>
8	3歳児検診の他、年長児（5歳児）検診の実施。就学1年前に行うことで、親子が安心して入学に備えることができる体制や発達支援が開始できると思われまます。1年かけての支援開始と就学児検診での直前ショックの軽減。発達障がいなどは4～5歳になったころに親の認識が始まることが多い。他市では、子ども一人を起点とした子育てのネットワーク化が始まっています。高齢者のケアマネジャーみみたいな子ども版ケアマネジャーが障がいの有無に関わらず、子どもの育ちに家庭と共に寄り添って育んでいくそうです。	<p>稲沢市では、5歳児健診は実施していませんが、保育園、幼稚園、こども発達支援室、健康推進課が連携し、就園や就学に向けて、専門職（臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、保健師）の視点で発達支援や子育て支援を行っています。</p>

・外国籍の子どもについて

9	外国籍の子ども支援と家庭支援について。言語、子育て支援ガイドブック、スマホサイト、お便り等の多言語化表示だと理解してもらいやすいのではないのでしょうか。また、幼児期からの日本語教育は、通級指導教室でされているのでしょうか。学童期でなくても指導が受けられるような施策を立てて欲しい。	<p>子育て応援サイト「すくすくいなッピー」については、多言語表示を行っており、制度等の周知を図ってまいります。</p> <p>また、保育園でも外国籍の子どもが多くなってきました。多言語化表示は今後必要となっていくと考えますので、検討をしていきたいと思ひます。</p>
---	--	--

・学校生活について

10	<p>小・中学生の子どもの悩み相談は、担任を通じて臨床心理士や心の教室相談員に、予約を取らなければならないと聞きました。これが確かなら思春期の子どもにとって、大変ハードルが高く、無理な仕組みではないでしょうか。悩みが小さいうちに本人に寄り添えるよう仕組みを変えるか、対策を計画する重要性を感じます。</p>	<p>子どもの悩み相談は、学校で早期発見、早期対応するために、定期的に生活アンケートを実施するほか、随時教育相談を行い担任が子ども一人ひとりと面談を行っています。</p> <p>臨床心理士（スクールカウンセラー）や心の教室相談員は、学校に来る日が限られているので、予約している場合があるのではと考えます。</p>
----	---	--

・保育士について

11	<p>保育士、学童保育職員は子ども観・保育観の違いから、職員間のいじめが発生しやすいです。一人で抱え込み悩み離職もしやすい。保育の悩み、いじめ、パワハラに対して保育者が気軽に相談できる第三者的な相談機関が欲しい。職員の心身の健康があつてこそ、質の高い保育と保護者支援が提供できます。保育士の質の向上と共にメンタルヘルス対策も施策とするのは、筋違いでしょうか。</p>	<p>職員の健康面については施設長がこまめにチェックし、メンタル面でのフォローに心がけています。また、希望者には指導保育士と個別に面談する機会を設け、現状の把握に努めています。</p> <p>なお、メンタルヘルスチェックは、職場ごとにおこなっており、第三者への相談体制も整えています。</p>
----	---	--

・子育てサイトについて

12	<p>子育ての困り事、支援の改善点、例えばスマホの子育てサイトの見直しなど、現役世代のママ達への調査・アンケートを考えるなど稲沢市の子育て支援の向上には実際の使い手である市民の目線と力を活用できると良いと思います。正直なところ、サイトの評判はあまり良くありません。</p>	<p>子育て応援サイト「すくすくいなッピー」の内容につきましては、よりわかりやすく情報発信できるよう努めていきます。また、御意見はサイトからも送信可能となっております。</p>
----	--	--

・医療費について

13	<p>医療費無料、補助は求められている施策かもしれませんが、すべての子どもに必要ではないと思われるし、実際に保育園でも飲まなくてもいい薬を飲まされてしまう事例を沢山みてきました。子どもの心配だけでなく、親が仕事を休めない、休みたくないからです。この件だけでなく、予算の在り方、稲沢市独自の施策に期待しています。</p>	<p>子ども医療費の助成は、子どもの健全育成及び子育てにかかる経済的負担の軽減を図ることを目的としており、今後も継続して実施していきます。</p> <p>また、どの子ども医療機関に早期にかかることができるようにすることは、子どもの健康維持に有効であると考えます。これからも「子育て・教育は稲沢で」と感じていただける施策の展開について検討していきます。</p>
----	---	---

・ネット教育について

14	<p>小学生・中学生の保護者からは、不登校、いじめ問題の相談を受けます。時代と共に、いじめの陰湿化も進み、ネットでの誹</p>	<p>子どもにスマホを触らせる保護者は保育園でも見られます。保護者向けに講座を提供し、スマホが子どもに及ぼす影響を意識していただくことも</p>
----	---	--

<p>誹中傷、いじめの対応、対策を子育て支援計画の策にも。スマホやネットを与えるのは保護者ではありますが、触らせる前に、家庭で親子の約束が交わせるよう教育の必要性と人としての領域を育てるのは、やはり家庭教育しかないと思います。</p> <p>幼児期からのネット講座を保護者に提供し、いじめだけでなく、ネット被害の怖さを段階的に教育として子どもも親も学ぶことを施策に組み込んで計画して欲しいと思います。年齢別のスマホ使用時間なども調査し、対策を計画して欲しい。</p>	<p>大切であると考えます。</p> <p>また、小・中学校では「ケータイ・スマホ安全教室」を子ども、保護者、教師を対象に開催し、インターネットの正しい使い方や友達とのコミュニケーションのとり方を教えています。また、子どもの悩みに気付き、相談にのることができる体制づくりに努めています。</p> <p>授業では、総合的な学習の時間や道徳科などで、子どもたちはネット上のルール、ネットの利用による健康を害するような行動、情報モラルなどについて、段階的に学習しています。</p>
---	---

### 子ども会について

<p>15 地域の子育てとして字単位の子ども会は重要だと思います。屋敷ごとにイベントがあり、以前はスポーツ大会も開催され楽しみでした。子どもが少なくなり、イベントが減って、ただの通学団になりつつあります。子ども会は市と関係ないのでしょうか。子どもの社会性や生活にも直接関わる子ども会にも支援をしてもらいたい。</p>	<p>子ども会の活動は、児童福祉の向上に寄与していると考えており、子ども会連絡協議会の事業活動に対して支援を行っており、継続して実施していきます。</p>
--	---

### ・計画（案）について

<p>16 一番支援を必要と思われる、ひとり親や貧困世帯、病気を持つ親、虐待、DVの当事者の方が、この計画素案を見つけたり、コメントできる機会はあるのでしょうか。ぜひ、該当する方々からの貴重なコメントを頂き、稲沢で子育てをする誰もが笑顔で楽しく暮らせる安心安全な支援策を計画してください。</p> <p>また、稲沢市では、切れ目のない子育て支援を目指していますが、改善すべき点はどこだとお考えで、何を重点課題とされたのでしょうか。施策計画案からは見えにくいと思いました。また、18歳までを対象にした支援計画ですが、今回のアンケートは児童期までの子育て世帯を対象に調査をされていました。中学生、高校生、大学生等、18歳までの青少年がいる世帯からのアンケート結果が見当たりません。</p>	<p>計画案につきましては、市民の皆様から御意見をいただけるよう、広報いなざわに「パブリックコメントを募集します！」を掲載しました。また、市役所、支所・市民センターでの閲覧のほか、子育て応援サイト「すくすくいなっぴー」でも募集を行いました。なお、計画策定後でも、計画についての御意見を「すくすくいなっぴー」内で随時募集しています。</p> <p>本計画では、基本的な視点として、4つの基本目標を定め、その実現に向けた15の基本施策に基づいて、現状と課題、今後の方向性を示し、これを達成するために、市全体で連携をとりながら、子育て支援を進めてまいります。</p> <p>アンケートにつきましては、国から示された基本指針に基づき、調査を実施しており、中学生以上を対象としたアンケートは実施しておりません。</p>
<p>17 様々な課題はありますが、私たち市民も、市民を支えるために主体性を持ったソフト面の仕組みづくりを作っていく必要性を感じています。行政には、子ども目線で最大</p>	<p>子どもの成長にとってより良い環境づくりのためにも、地域全体で子どもや子育てを見守り支えることが必要であると考えます。この計画のみならず、関連する計画等と整合性をとりな</p>

	<p>限に支援策を考えてもらい、子育て環境のハード面もソフト面も整備された稲沢市なら、子どもを産み育てやすくなり子育て世代の転入も望めるのではないのでしょうか。ぜひ、人口減防止のためにも頑張っていたきたい。笑顔があふれ、みんなで子どもを育てる感覚がある稲沢市であって欲しいと願います。</p>	<p>がら、子育てしやすいまちづくりを進めてまいります。</p>
18	<p>P37基本目標「1家庭における子育てへの支援」、「2子どもの健やかな発達を保障する教育・保育の提供」、「3すべての子どもの育ちを支える環境の整備」、「4仕事と子育ての両立の推進」について。1について子育ては家庭と想定していいのかという疑問がわきます。親がいない子どもや、虐待・DV・ネグレクト、貧困等子育て環境が破壊されることにより、子どもの心の問題も多くなっています。また、外国人の就労なども増え、先日の成人式に外国人の参加もあったように、これからは外国人の子どもの保育や教育も問題になってくることは明白です。日本人であろうと外国人であろうと日本に暮らす子どもは健やかに育つ権利がある。育ちを阻害されれば、問題を起こす原因にもなってきます。豊かな子ども期を稲沢市で過ごせるための施策を願います。</p> <p>1は「子育てを応援」にして欲しい。子育ては社会的なもので家庭のみに責任転嫁するのは時代錯誤です。</p> <p>2、3、4は目標として必要だと思うが、御題目だけで具体的施策が乏しいように感じる。</p>	<p>子どもが成長するために家庭が担うべき役割は重要なものと理解しております。しかしながら、御意見にあるように課題も多くあります。いただいた御意見を参考に、充実した施策が実施できるよう努めてまいります。</p>
19	<p>P40①保育サービス等の充実の「8地域保育事業の検討」について。「10保育の質の向上」、「12発達に応じた保育の実施」を担保しようとするれば、保育士の経験が次世代に受け継がれることで、良い保育が保障されてきます。一時しのぎの保育ニーズで小規模保育などを実施するのは考え物です。命を預かる仕事です。儲け仕事にはなりません。正規の保育士（専門職です。子守ではない。）を雇用し、保育士も経験を積むことで成長していきます。それでこそ親を指導したり励ましたり子育てを応援していけるようになります。</p>	<p>公私立保育園、認定こども園、小規模保育事業所とも子どもを預かる施設として、研修に参加したり、園内研修をしたりして、それぞれに保育の質の向上に努めています。</p> <p>また、市が主催する研修では、小規模保育事業所の保育士にも案内させていただき、同じ意識を持って取り組み、保育の質の向上に努めています。</p>

20	<p>P40「基本施策①保育サービスの充実」について</p> <p>①「2延長保育の充実」は、公立保育園も全園で延長保育の実施を求めます。住んでいる地域の保育園に行きたくとも行けない実態がある。</p> <p>②「3乳児保育の充実」は、現在の公立保育園全園で実施することを求めます</p> <p>③「8地域型保育事業の検討」は、「小規模保育」「家庭的保育」など、保育士の資格、園庭など保育所の基準が緩和された保育施設となっている。安心して働けるためにも0歳からの保育所整備を求めます。</p>	<p>①保護者のニーズ、保育士確保の課題等とともに検討していきます。</p> <p>②保護者のニーズ、保育士確保の課題、近隣の保育園等とのバランスに配慮しながら検討していきます。</p> <p>③小規模保育事業所は、0-2歳児が家庭的な雰囲気の中で保育が受けられる施設として、一定の需要があります。0-2歳児の受け皿確保のため、今後も、地域の保育ニーズを把握しながら、保育園の整備と併せて地域型保育事業の整備も検討していきます。</p>
21	<p>P40「9放課後児童クラブの充実」は、児童館などの間借りではなく、専用場所の確保が必要。1人当たり、1.65平方メートルの確保ができていないクラブが多い。施設も備品も足りないものが多く、子どもたちの豊かな放課後を保障できていない。6年生までが対象になった現在、夏休みにプールにも行けず、自主的活動を保障する空間、施設内容、職員体制になっていない。愛知県の小学生の運動能力の低下が言われているが、外遊びの保障がされていない現状を憂慮する。早急に改善してほしい。</p>	<p>既存の施設を活用しながら、不足する設備等の整備に努めていきます。屋外での遊びについては、併設及び近隣施設等を利用できるよう工夫した支援を行っていきます。また、利用ニーズに対応できるよう放課後児童支援員の確保及び配置に努めていきます。</p>
22	<p>P40「9放課後児童クラブの充実」について。地域性や、長期休業期間の利用ニーズに応じ、場所の確保や運営方法等を検討しますとしています。また、児童クラブは毎日、一日生活する子どもの居場所ですが、児童館、児童センター、学校を利用して実施されていますが、狭い場所で窮屈な生活を強いられている所もあります。専用の施設としては不十分となっています。外での遊び場の確保がないところもあります。施設の基準を定め、豊かな生活ができる場の提供、専門性を備えた指導員の配置で子どもたちの育ちを保障する施策を望みます。</p>	<p>No.21に同じ。</p>
23	<p>P41「11保育園の整備」は、子どもの安全を守りより良い保育をするために、1階建ての保育園で園庭が広いことがベストです。2階建ては子どもを見守るのは難しく、管理することにつながります。老朽保育園は、保育士の意見を聞き木造一階建てに建て替えてほしい。子どもは自由な遊びの中で仲間とともに育ちます。公的保育での保育士の正規雇用が求められています。</p>	<p>保育園の整備については、一階建て、二階建てそれぞれ良い点があると考えます。保育士の意見を聴き、環境にあった方法での整備を検討していきます。</p> <p>また、保育園では、子どもが主体的に環境に関わり遊びを進めていく保育をどの保育園でも取り組んでいます。</p>



	安全のためと言って、子どもを閉じ込め管理する保育は、子どもの発達を阻害します。子どもの健やかな発達成長を促すための保育体制が必要だと考えます。	
24	P41「18保育園給食費（主食代）の無料化」については、幼児教育・保育の無償化により副食代が保護者負担となった。給食費は無料化・一部補助の検討・実施を求めます。「20、21保育料・授業料の無償化」については、0歳児から2歳児の保育料は保護者の負担も大きい。無償化の対象とすべきです。施策の拡大を求めます。	新たに実費負担となった副食代については、稲沢市独自施策により、中学3年生から数えての第2子（所得制限あり）、第3子（所得制限なし）を対象に無料となる世帯を拡大しています。なお、0歳児から2歳児の保育料については、保育士確保の課題、財政的負担及び受益者負担の観点等から一律に無償化する予定はありません。
25	P44「3妊産婦健康診査」は、母子の健康のために妊産婦の無料検診回数を増やしてほしい。「7予防接種の推進」は、推進のために、援助を増やしてほしい。 P45「24子どもの医療費助成」を18歳までにしてほしい。経済支援につながります。	妊産婦健康診査費の助成については、愛知県内で統一されたものであり、必要な費用の助成はできていると考えます。また、予防接種費用の助成については、現状維持で考えています。 子ども医療費助成については、令和2年8月診療分から入院医療費の助成を18歳の年度末まで拡大するために、令和2年3月議会に予算及び条例改正の議案を上程します。
26	P45「24子ども医療費の助成」について、子育て支援充実で18歳までの無料化の施策拡大を求めます。	N25に同じ。
27	P45「20アレルギー食の対応」については、アレルギーの子どもも安心して食べられる、食材、献立の工夫も取り入れた給食の提供もできるのではないかと。	保育園では、カレー、シチュー、ドレッシングなど28品目アレルギーフリー食材や練り製品や加工品、パンなど乳・卵のアレルギーのない食材を利用して、どの子どもも同じ給食を食べることができる給食提供に努めています。
28	P47「基本施策⑤親と子の居場所と交流の場の充実」について。児童館・児童センターの役割を果たす施設が必要です。稲沢市は児童館で学童保育を実施しているため、夏休み等は児童館が使用できません。また、児童は18歳までですが、旧の稲沢市の児童館は小学生が対象の施設しかありません。旧祖父江町の児童館は中学生になっても遊びに寄れる施設になっています。大型児童館を建設して、中学生・高校生が健全に集える場所を提供してほしい。	児童館・児童センターは、0歳から18歳までの子どもが自由に利用できる施設です。高年齢層の子どもが、利用しやすい施設となるよう、利用時間、設備などを検討していきます。
29	P48「15児童遊園等の整備」について。地域に公園をつくってほしいというニーズにこたえて整備を求めます。	児童遊園を安全に利用いただくため、適正な維持管理に努めるとともに、必要があれば設置について検討していきます。
30	P49「1幼稚園・認定こども園」について。民営化は止めてほしい。人間に関わる仕事に経済性を追求することはもったいないかだと思います。人間形成の基礎を培うた	民間が行う施設の運営や整備には、民間の持つ柔軟性や効率性を活かして保育サービスを充実させることが期待でき、国・県から補助金等が交付されるため、市の財政負担が軽減される

	めには、関わる人間の質と量、空間が必要です。	ことから、民営化も保育施設のあり方のひとつとして検討していきます。 施設を民営化するには、信頼できる良好な教育・保育の実施が可能か、安定した経営が持続的に確保できるか、教育・保育の質の向上に対する取組みが期待できるか、など総合的な観点から事業者を選定していきます。
31	P49「3保育の質の向上)」について。専門性に見合う賃金体系や待遇改善はどうするのか。保育士の資格は全員必要。	保育士の負担軽減や処遇改善の方法については、今後も調査・検討を続けていきます。
32	P50「基本施策②学校教育の充実」について。英語教育・プログラミング教育など新しい事業が増えているのに、教師の数は増えていない。これではうまくいくはずがない。学校で困っていることが多い現実を変えるためには、少人数学級が一番です。支える教師を稲沢市で確保してほしい。 各地で学力を向上する取り組みが行われているのをみると、少人数の学校が一番取り組みやすいことが分かっている。学校統廃合を考えるのではなく、稲沢市でも子どもを中心とした教師が自主的に教育できるシステムを作っていくチャンスではないのかと思う。それが学校教育の充実につながると考える。	現在、市の予算で、「少人数指導」「小学校外国語」「セーフティ・プラスワン」「代替養護教諭」「スクールソーシャルワーカー」などの講師の方や「特別支援教育支援員」「図書館司書補」などの人的措置をしています。今後も、市内の各学校において、きめ細かな教育をしていくために必要な教職員の確保をしていきたいと考えています。
33	P50「11セーフティ・プラスワン事業」について。低学年児童の下校時の安全確保のための一斉下校は、高学年児童の大きな負担となる。低学年児童を1時間留め置くことは、自由に遊ぶ時間がなくなる。遊びを通しての発達段階の成長の保障など大事な時間をうばうことになる。学校に留め置くのは子どもの育ちの視点から見ても止めるべき。下校の安全は地域の人との協力、有償による人の配置など考えるべき。事業の廃止を求めます。	「セーフティ・プラスワン事業」については、低学年児童の下校時の安全を確保するとともに、多様な学びの一助ともなっており、保護者の方々から継続を希望する声が強くなっていきます。また、低学年児童についても、プラスワンの時間を楽しみにしております。今後も事業を継続していきたいと考えています。
34	P53「基本施策②障害児とその家庭への支援」について。障がい児が増加し、住んでいる地域での保育と支援が求められてくるのは必須です。障がい児を抱えた保護者がつらい思いをしないよう、専門的な知識と経験に裏打ちされたスタッフを置いてこそ、安心して保育や教育ができます。18歳までの継続的な取り組みを期待します。	市内には、療育支援機関として、療育の専門職において児童発達支援や放課後デイサービスを行う事務所があります。市としては、研修会を開催するなどして、スタッフの質の向上も図っていきます。 また、子育て支援総合相談センターでは、発達に関する悩みに関して、臨床心理士などの発達の専門職が相談に応じています。
35	P55「4就学援助の実施」について。子どもたちが貧困から、十分な教育を受けられないことをなくすためにも就学援助を利	就学援助制度については、市のホームページや広報でお知らせしているほか、学校を通して案内も配布しております。また、年度途中の申

	<p>用しやすくして欲しい。所得基準を明確に知らせてほしい。(生活保護基準 1.4 倍の基準を採用して欲しい。) 学校給食費の無料化も、子育て支援になります。ぜひご一考を。</p>	<p>請については、随時受付を行っています。稲沢市では、令和元年度より経済的理由の申請において所得基準を明確化しました。現状、生活保護基準額の 1. 2 倍以下の世帯を対象としております。</p> <p>学校給食費の無料化については、現時点では予定がありませんので、御理解を賜りますようお願いいたします。</p>
36	<p>P5 6「基本施策⑤多様な文化を持った子どもと家庭への支援」について。英語とポルトガル語の広報とありますが、稲沢市には英語圏とポルトガル語圏の外国人以外の方はいないのでしょうか。教育を受けているのでしょうか？もっと問題意識を持って調査研究をして欲しいと思います。稲沢が故郷になる子どもたちが大人になって稲沢で育ってよかったと言ってくれるような施策・教育をしてほしい。</p>	<p>全ての子どもが健やかに育つことができるようにこれからも調査・研究等進めてまいります。</p>
37	<p>P6 4掲載の「保育園の今後の方向性」について、保育園の望ましい定員、提供場所など歩いて行ける範囲にあるのが、子どもが育つふさわしい場と思います。認定こども園は、大規模化や子どもたちの育ちにとってどうなのか問題点も出されています。十分な検証を求めます。</p>	<p>認定こども園は、保護者の就労状況にかかわらず就学前の子どもに幼児教育・保育を一体的に提供する施設で、様々なニーズに柔軟に対応できることが利点と考えています。今後も、施設の規模や環境のあり方については、検証を行っていきます。</p>